

議 事 録

会 議 名	令和6年第2回小牧警察署協議会（定例会）																													
日 時 ・ 場 所	令和6年5月30日(木) 午後2時から午後3時までの間 ----- 小牧警察署 講堂																													
出 席 者	<p>1 委員</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">鈴木 浩一</td> <td style="width: 33%;">副会長</td> <td style="width: 33%;">姉川 健治</td> <td style="width: 33%;">委員</td> </tr> <tr> <td>AHMAD UMAR ZAHRI</td> <td>委員</td> <td>川口 エリカ</td> <td>委員</td> </tr> <tr> <td>吉田 弘子</td> <td>委員</td> <td>門澤 光洋</td> <td>委員</td> </tr> <tr> <td>永井 基幸</td> <td>委員</td> <td>松本 善幸</td> <td>委員</td> </tr> <tr> <td>渡邊 祐子</td> <td>委員</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>以上9名（定数10名）</p> <p>-----</p> <p>2 警察署員</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">原田署長</td> <td style="width: 33%;">國光副署長</td> <td style="width: 33%;">神田警務課長</td> </tr> <tr> <td>村上会計課長</td> <td>丹羽生活安全課長</td> <td>坂本刑事課長</td> </tr> <tr> <td>掛布交通課長</td> <td>菱田警備課長</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">以上8名</p> <p>-----</p> <p>3 有識者等</p> <p>なし</p>	鈴木 浩一	副会長	姉川 健治	委員	AHMAD UMAR ZAHRI	委員	川口 エリカ	委員	吉田 弘子	委員	門澤 光洋	委員	永井 基幸	委員	松本 善幸	委員	渡邊 祐子	委員			原田署長	國光副署長	神田警務課長	村上会計課長	丹羽生活安全課長	坂本刑事課長	掛布交通課長	菱田警備課長	
鈴木 浩一	副会長	姉川 健治	委員																											
AHMAD UMAR ZAHRI	委員	川口 エリカ	委員																											
吉田 弘子	委員	門澤 光洋	委員																											
永井 基幸	委員	松本 善幸	委員																											
渡邊 祐子	委員																													
原田署長	國光副署長	神田警務課長																												
村上会計課長	丹羽生活安全課長	坂本刑事課長																												
掛布交通課長	菱田警備課長																													
諮 問 事 項 等	自転車利用者の交通事故抑止対策																													
答 申 等 の 概 要	<p>1 学生や高齢者に対する交通安全教育の機会を増やす</p> <p>2 自転車通行帯を設置する等、自転車の安全な通行の確保</p> <p>3 通勤、通学時間帯など、的を絞った指導及び広報啓発活動の実施</p> <p>4 学校や企業と連携し、啓発チラシ等SNSを活用した情報発信の実施</p>																													
そ の 他	次回開催予定 令和6年8月下旬																													

会議の経過及び発言の要旨	
1	副会長挨拶
2	署長挨拶
3	各種報告
	(1) 管内の犯罪発生状況[令和6年4月末]（生活安全課長説明）
	(2) 管内の交通事故発生状況[令和6年4月末]（交通課長説明）
4	前回の答申に対する具体的施策の推進状況（署長説明）
	(1) 諮問事項
	特殊詐欺の未然防止対策の推進
	(2) 答申事項
	ア 前兆電話も含めた身近な犯罪情報の積極的な発信
	イ 「アイチポリス」アプリへの登録を促進し、積極的な情報発信
	ウ 高齢者向けの会合やイベントを通して情報発信し、犯罪情報の周知
	(3) 推進施策
	ア 答申事項アについて
	犯行利用が急増している国際電話対策として、巡回連絡や各種会合等の機会を通じて、「国際電話不取扱受付センター」の案内や常時留守番電話設定を周知した。
	パソコンのサポートをする等の名目で、電子マネーをだまし取る詐欺の手口が増加していることから、コンビニエンスストアの店員に対して、チェックシートを活用しながらの声掛け訓練を実施し、警察への通報を依頼した。
	小牧市内の全中学校で、少年をアルバイト感覚で犯罪に加担させな
	記録者
	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
いために、セルフディフェンスと題した啓発活動を行った。	
イ	答申事項イについて
小牧市内の自主防犯パトロール団体代表者会において、大型スクリーンを活用し、アイチポリスの登録方法を解説し、スマートフォンに不慣れな方への普及に努めた。	
ウ	答申事項ウについて
65歳以上の高齢者が無料で乗車できる、市内巡回バスのデジタルサイネージを活用した動画発信を実施した。	
高齢者支援施設の社会福祉士と連携し、施設利用者やその家族に対して特殊詐欺の手口や対策を説明した。	
元プロ野球選手を一日警察署長に委嘱し、老人福祉センターでイベントを開催し、特殊詐欺の防犯対策をクイズ形式で実施した。	
5	諮問
(1)	諮問事項
自転車利用者の交通事故抑止対策	
(2)	諮問事項の設定理由（交通課長説明）
令和6年交通警察業務指針の最重要課題は交通事故の抑止となっているが、抑止の柱として4つの対策が挙げられている。その対策のうちの一つが自転車対策となっている。	
小牧市内の交通事故情勢は、交通事故の特徴として、四輪車の事故に次いで自転車の事故が多くなっており、ほとんどが出合い頭によるものである。自転車事故の原因は、安全不確認や一時停止違反が多くなっている。	
	記録者
	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
自転車事故が発生すると、四輪車に比べてケガがひどくなる傾向にある。	
そのため、小牧警察署では自転車利用者の交通違反に対する指導取締りやヘルメット着用の促進などを推進しているが、自転車利用者による交通事故を減少させるべく効果的な施策について協議願いたい。	
6 協議	
委員	・ 車を運転中の知人が自転車の高校生と衝突したが、相手は一時停止を無視し、耳にイヤホンをしていた。中学生、高校生の事故が多ければ学校を通じて指導をし、事故の発生しやすい場所を集中的に取締りをしたらどうか。
委員	・ 学校では交通安全教育の機会が減少しているので、教育委員会と連携して薬物乱用教室等の際に実施したらどうか。
	・ 学校で交通安全教室が開催されれば、子供は真剣に話を聞き、保護者に開催案内を出せば熱心な保護者は参加する。
	・ ホームページを開設している学校では、参加できなかった保護者が交通安全教室の状況を見ることができるよう、ホームページに掲載したらどうか。
委員	・ 小学生の保護者から、自転車の乗り方教室をやってほしいという意見が多い。
委員	・ 外国人の実習生等は、会社からヘルメットを被るように指示されていても、カゴの中にヘルメットを入れて被らない人がいる。
	・ ヘルメットを被っていない人をパトカーが見かけても注意しないので、注意した方が良い。
	記録者
	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
警察	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年4月1日からヘルメットの着用が義務化されたが、努力義務で罰則規定がないため、着用する人は少ない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 通勤時間帯に自転車通学の学生を見かけるが、急いでいるためか交通ルールを守らない学生が多い。学校周辺で通学時間帯に警察官の姿を見せれば、状況が改善されるのではないかと。 高齢者等へもヘルメット着用の必要性をもっと広報してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ヘルメットの着用、交通ルールやマナーを浸透させるには講習を開催して、浸透させるしかない。 車の運転者も、自転車は予想できない動きをすることを認識して運転する必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 車で左折時に自転車が左側から猛スピードで走行してきて、危険を感じたので、自転車専用の通行帯を設置できないかと。
警察	<ul style="list-style-type: none"> 自転車専用帯を設置するには、道路の幅員等の様々な制約がありどの道路でも設置できるわけではない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 会社で自転車通勤者の通勤時の交通事故が発生すれば、時間、場所等の情報を具体的に記載して、社内報で情報発信して注意喚起している。 学校周辺の交通事故発生状況について、危険な場所や時間帯を子供に伝えられれば、子供も危険だと認識し、交通事故抑止につながるのではないかと。 啓発チラシ、デジタルサイネージ、企業等のSNSへ交通事故情報を発信すれば、交通事故抑止対策への協力を得られるのではないかと。
	<p style="text-align: right;">記録者 警務係長</p>

会議の経過及び発言の要旨	
か。	
委員 ・ 自転車シミュレーターを活用すれば、小学生から高校生まで楽しみながら教育ができる。	
7 答申	
(1) 学生や高齢者に対する交通安全教育の機会を増やす	
(2) 自転車通行帯を設置する等、自転車の安全な通行の確保	
(3) 通勤、通学時間帯など、的を絞った指導及び広報啓発活動の実施	
(4) 学校や企業と連携し、啓発チラシ等SNSを活用した情報発信の実施	
8 その他	
次回の開催予定は、令和6年8月下旬頃とする。	
記録者	警務係長